

四年毎に開催されるサッカー・FIFAワールドカップの南アフリカ大会が始まりました。日本チームは初戦のカメルーン戦を見事勝利で飾り、日韓大会以来となる八年ぶりの勝利に日本中が沸き立ちました。K氏は四年前、結婚以来どこにも旅行したことがないサッカーファンの妻へのプレゼントとして、「ワールドカップドイツ大会」観戦の計画を立てました。

平成十八年六月十四日から二十九日までドイツに滞在、六月十八日に開催が決定していた「日本対クロアチア戦」のチケットを知人に依頼し、準備を整えました。

航空券も手に入れ、K氏の妻は日本チームのユニフォームやドイツ語の翻訳機、ドイツ旅行ハンドブック等を買込みドイツ行きを指折り数えて待っていました。

ところが、出発を目前にした六月二日、妻よりK氏に電話がありました。

「サッカー観戦のチケットが先ほど届きましたが、十八日の日本対クロアチア戦ではなく、十二日の日本対オーストラリア戦のチケットでした。私が十四日に行った時は終わっています。その試合を観るためには日本を九日に出発しないと間に合いません」と話し、その声は沈みきっています。

このままでは一年近く準備をしてきた努力も水の泡、希望から失望への転落です。残された日数は僅かです。K氏はこの試合に間に合う航空券を手配しようとしたのですが、全世界からドイツに集中しているため、どの旅行会社、航空会社も「今からでは無理でしょう」との返答しかありません。もちろんクロアチア戦のチケット入手も不可能です。K氏は焦りとともに諦めかけまし



ネバーギブアップ！ 可能性を諦めるな

だが、ふと毎週通っている経営者モーニングセミナーで読む『万人幸福の栞』の一節(第三条)を思い出したので。

「目の前にきたあらゆる機会(とき)をとらえて、断乎として善処する人、一度こうと目的を定めたら、終始一貫やってやってやりぬく人、これが世に言う成功者である」
よし、何が何でも実現させるぞ」と思い直し腹を決め、再び航空会社に電話をかけたものの、やはり「満席です」という言葉しか返って来ません。

だめかと思った時、N航空会社から「たつた今、一名キャンセルになりました」と連絡があり、幸福の切符を手にする事ができたのです。K氏は「あの時、諦めなくてよかった。成功と失敗は、一パーセントの可能性でもあれば最後までやり抜くかどうかの差ですね」と四年前を振り返ります。

物事が順調に進んでいる時は問題ありませんが、一旦、壁にぶつかった時、自身の真価が問われます。当然、個人の力でどうすることも出来ないことは甘んじて受け容れなければなりません。自分はダメだ、運が悪かった、相手が悪かった、世の中が悪すぎる」と否定的に捉えて諦め投げ出すか、「この苦難を乗り越えて、実現・成功するまでやり抜くぞ」と奮起し腹を括るかで、結果は大きく変わってきます。

『万人幸福の栞』は実践の手引き書でもありません。熟読すると、必要な時に必要なことがひらめきます。「気づき」はチャンス到来のメッセージと受け止め、放置せずに実行あるのみです。掲げた目標に向かって、何がなんでも」とひたすら突き進み、成功の栄冠をつかもうではありませんか。

映 栗木 栄